

平成26年度継続課題に係る継続評価書 (平成25年度採択課題向け)

研究機関 : 富士通(株)、NRIセキュアテクノロジーズ(株)、
国立大学法人名古屋大学

研究開発課題 : サイバー攻撃の解析・検知に関する研究開発

研究開発期間 : 平成25～29年度

代表研究責任者 : 塩崎 哲夫

■ 総合評価 : 適 (適／条件付き適／不適の3段階評価)
(評価点 19点／25点中)

(総論)

研究開発の継続が望まれる。

(コメント)

- 研究開発の独自性を維持し、期待される大きなアウトカム目標の達成に向けて研究開発を継続すべき。
- 関連するテーマを扱う機関同士の連携には留意が必要。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム
目標の達成に向けた取組の実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価 4点

(総論)

独自性の高い成果が得られており、全体を通して概ね目標を達成している。

(コメント)

- 特に「利用者の行動特性に基づくサイバー攻撃を検知する技術」や「既存のログに依存しない利用者環境の特性を活用したサイバー攻撃の侵入経路及び進行状況を解析する技術」といった研究開発テーマで、深く理解が進んでいる。
- 個人情報の取扱については、現在政府でも議論が進められており状況が変化しているが、これらの動向にしっかりと対応した取組が行われている。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価 4点

(総論)

研究資金の効率的執行のための工夫を行うなど、優れた取組が認められる。

(コメント)

- 予算計画作成時と比べサーバ機器等が大きく高騰しているが、可能な場合には実環境ではなくクラウド環境を利用するようにより、研究資金の効率的執行のための工夫が行われている。

(3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組

(5～1の5段階評価) : 評価 3点

(総論)

工程としては妥当な計画である。研究開発の独自性の維持に注力することが必要。

(コメント)

- 研究開発のための環境構築が計画通り進捗しており、次年度に大きな成果が期待される。
- 研究開発の独自性がやや後退した計画になった印象がある。利用者の行動特性への着目は本研究開発を特徴付ける大きな強みであり、引き続き注力すべき。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価 4点

(総論)

圧縮された予算の中で、効率的な予算計画が組まれている。

(コメント)

- 予算が圧縮されたものの、目標達成に向けて効率的な予算計画が組まれている。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価 4点

(総論)

力のある研究者等から成る適切な実施体制が組まれている。

(コメント)

- 非常に力のある研究者等によりチームが構成されている。
- アドバイザリボードからの助言が有効に活用されている。
- 関連するテーマを扱う機関同士の連携には留意が必要。